



## 卒業を迎えるに当たって「夢や志」「感謝」を！

いよいよ3月となり、今年度もあとわずか。中学3年生は義務教育9年間の課程を終え、それぞれの夢や希望の実現に向かって一步を踏み出す時期となりました。

今号は、尾花沢市を巣立つ中学3年生に向け、夢・志について触れたいと思います。

■高校3年生の息子の卒業式にて：担任の先生から卒業生へのメッセージ（令和6年3月1日）

### 「夢」をあきらめるのではなく、「夢を持つこと」をあきらめない

補足：現在の夢の実現を目指すために努力することは大切だが、変化の激しい予測困難な時代でもあり、1つの夢にとらわれすぎて苦しくなることもある。たとえ「A」という夢が成し遂げられなくても、「B」「C」などの「夢を持ち続ける」といったしなやかさ、柔軟さが大切である。

私もその時々で夢は変化してきました。「医師になって、病気の人々を救いたい」「鉄道会社に勤めて、好きな新幹線や電車に関わりたい」…。仕事に就いてからは「生徒には、他人の心の痛みの分かる人になってほしい」「数学の面白さを実感してもらえる授業をしたい」…。家庭を持ち、親になってからは「厳しい父でありたい」「笑顔の絶えない明るい家庭にしたい」…。



実現できずに苦しくなったり、ころころ変わったりではありますが、夢を持つことで、充実した豊かな人生を送ることができてきたことを実感しています。担任の先生からの卒業生へのメッセージは、親である私にも「がんばらなきゃ」という気持ちにさせるものでした。卒業生の皆さんも、夢（や志）を常に持ち続けてくださいね。

■高校3年時の担任の先生からの手紙（昭和62年8月24日）の抜粋

先日、片付けをしていたら、高校3年生の時に担任の先生からいただいた手紙が出てきましたので紹介します。

諸君のお父さん、お母さんは、「子は親に甘えていいのだから、できる範囲はあるけれども、やりたい道に進みなさい」と思っているようです。そういう期待に諸君は甘えていないでしょうか。当たり前だと思っ**てはいけません**よ。金銭面を含めて負担であることに違いはないのです。ただ、それは、将来ある諸君の可能性のために必要不可欠な負担であると、お父さん、お母さんは考えていらして、その期待感のために、負担を負担と思わない、あるいは、思わないようにしているだけなのでしょう。受験も進学も、諸君はお父さん、お母さんに**お願いする立場にあることを忘れず**、今後の家族での話し合いを進めてください。

現在の自分が存在するのは、そして、やりたいことをやらせてもらえるのは、保護者の方はもちろん、たくさんの方々に支えられていることを忘れずに、

「ありがたい」(※有り難い=当たり前ではない)という感謝の気持ちを常に持ち続けてくださいね。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課  
教育指導室長 工藤 雅史  
TEL 23-3330